



【所 感】

交わすことができ、有意義な視察となった。ただ、みなべ町は、高齢化比率が27～28%と本市に比べてかなり低い状況であり、本市ではより一層、地域ごとにきめ細やかな高齢者に対する避難の在り方を考えていかななくてはならないと痛感した。当日は地元新聞記者も同席し、同行しての取材があり、翌日の朝刊に紹介されたことでした。

みなべ町視察終了後、町議会議員の一人の方が、是非、お見せしたいと言って、隣接する日高郡美浜町の沿岸部に位置する松原地区まで案内して頂きました。ここは、2017年9月に高台の造成が完了した津波からの避難場所で、広さ2,400㎡、高さ15.5m、約2,000人が避難でき、近畿最大規模の高台造成で、南海トラフ巨大地震が起きると美浜町では最大17mの高さの津波が到達し、松原地区は約11.4m浸水すると見込まれていて、避難困難地域で、対象住民932人が解消できたとの事であった。県事業の余剰残土を利用して、工事費削減がなされたことや非常時に天板を外すとかまどとして使える「かまどベンチ」が備えられていてユニーク性がうかがわれた。その上、山間部の日高川沿いの日高川町での土砂災害防護壁（これは、数キロに及ぶ距離）や建設中の防災拠点施設等案内して頂き、見聞の中に新たな感動を覚えた事であった。改めて感謝している次第です。